お林展望公園・中川一政美術館・高浦駐車場・内袋に関する
サウンディング型市場調査の対話結果の公表について

2026年9月29日

真鶴町産業観光課

１．サウンディング型市場調査実施の経緯

お林展望公園・中川一政美術館・高浦駐車場・内袋エリア周辺（以下「お林展望公園周辺」という。）の活用、管理運営について、民間活力の活用の可能性、どのような事業手法が適しているか、民間事業者の創意工夫が図れる点があるか等について意見を収集し、今後の事業実施に向けて活用することを目的として、サウンディング型市場調査（以下「サウンディング」という。）を実施しました。

２．サウンディング対象施設

（１）お林展望公園

（２）中川一政美術館

（３）高浦駐車場

（４）内袋

３．サウンディングの実施スケジュール

実施方針の公表	2026年５月18日（月）
現地見学会・説明会の開催	①2026年５月27日(水)　②６月１日(月)　③６月５日(金)
対話の実施	2026年７月８日（月）～７月30日（木）
実施結果概要の公表	2026年９月29日（火）

４．サウンディングの参加者

（１）現地見学会・説明会参加者　15団体

（２）対話参加者　14団体

５.対話の方法

直接対話（個別対話）

６.主な対話内容

（１）利活用のためのアイデア

（２）施設の整備、改修内容

（３）施設の運用、管理について

（４）事業化にあたっての課題

（５）町に期待すること

（６）その他（自由意見）

７．結果の概要

（１）利活用のためのアイデア

【お林展望公園】

①飲食・キャンプ・イベント・自然体験等

・半島回遊の起点、眺望を活かした休憩・自然体験、マルシェ、地域イベント等の拠点。

・地元農家、事業者と連携したファーマーズマーケット、野外フェス・ライブイベント、焚き火エリア、キャンプサイトとして活用し、町民と訪れるゲストが対話し、音楽・自然・コミュニティが交差するローカルハブを創出する。管理棟は地産地消・有機食材を使ったカフェダイナーを運営し、ガーデンフードイベントやガーデンウェディングの会場としても活用。その他のエリアではハーブ園・蒸留所を設置し、地域雇用や体験型学習の場を育む。

・自然環境や眺望を活かした散策、休憩、小規模な交流・文化企画、自然観察等の場としての活用の可能性を検討する。

・管理棟に飲食店をリーシングする。公園内に景観に配慮した樹木葬の墓地の提供を行う。公園内に簡易宿泊可能なスーパー銭湯をリーシングする。

・芝生広場部分で品質の良い食器やテーブルを揃えた非定期な「食に関するイベント」等を開催する。移動型レストランを期間限定で設置し、地物の魚や地場産品活用することで、魚つき保安林のストーリーや真鶴の価値を理解してくれる人を集める。管理棟の２階のアトリエ復元ゾーンでは中川一政氏のアトリエから見えた風景を写真やデジタルで再現し、美術館と一体的に運営する。

・公園機能は生かしつつ、コンテナハウスを活用したキャンプエリアの設置、ドーナツ等の軽飲食店の営業、公園遊具の設置をし、週末ファミリー層の来場を取り込む。

②フェーズフリー

・フェーズフリー防災の視点を取り入れ、日常と非日常、平時と災害時の双方で機能する施設として利活用する。日常的にはイベントの開催や憩いの場として、災害時は地域の防災拠点

として機能させる。

③ペットツーリズム

・ドッグランを核とした「ペットツーリズム」拠点として利活用する。犬と安心して遊べる目的地とすることで、周辺の遊歩道や宿泊・飲食施設と一体的に結びつける核（ハブ）としての活用をする。定年退職後の熟年層を中心とした愛犬家コミュニティをターゲットとし、混雑を避けて平日・長期間滞在する需要を取り込む。

【中川一政美術館】

①展示内容・リニューアル

・中川一政作品を軸にした企画展示、関連作家や同時代性との対比展示、建築ツアー、展示に連動した物販等。

・コラボ展示室・茶室・リスニングルームを備えたアートハウスを設け、海外から含めた若手アーティストの滞在制作・展示発表の場として活用。

・中川氏の作品、建物、真鶴との関係性を核としつつ、展示、文化企画、地域の歴史・自然との接続などを通じて、現代の来訪者に価値を伝える文化拠点としての活用を検討する。

・収益性の改善および展示の柔軟性の確保の観点から現在の展示室の一部をカフェスペースおよび企画展示室や講演を行う多目的イベントスペース、物販スペース等に変更する。本小松石を活かしたアートの企画展示を行う。中川一政氏とゆかりのある作品の展示や他館との作品の貸し借りを強化する。物販では海洋プラスチックや漁網をアップサイクルした商品等の真鶴と関連は深く、環境をアピールできるものを販売する。

・真鶴町立美術館としてリニューアルし、他作家の作品の展示を行う。また文化的体験ができる美術館にする。

②貸館機能

・美術館の営業を継続しつつ、曜日や日程を決めて貸館の機能を持たせる。会議室等としての利用の他に特徴的な建屋や茶室などを有効活用するため、ドラマのロケ地や茶室教室などの利用も促進する。

③運営体制

・再開を最優先とし、運営継続しながら、美術館のあり方について検討チームを発足し、再生する。周辺一帯とまとめて事業運営のスキームにのせることは得策ではないので運営や事業性の検討については特有の知恵とノウハウを駆使して行うべきと考える。

【高浦駐車場】

①アクセス拠点

・駐車・回遊・移動手段の接続拠点等。

・４つの対象地を回遊する際の入口、集合、案内、情報発信、休憩等の機能を持つ拠点とし、小規模な物販、飲食、イベント受付、モビリティ等の実証も検討する。
・各施設の第二駐車場とする。

②施設整備

・倉庫（土地全面）を建てて、カフェ・室内ドッグラン併設の貸しスタジオを設置する。

【内袋】

①宿泊

・自然の中で滞在できる宿泊体験施設等。
・敷地内に小規模ヴィラを整備し、森や緑に囲まれた静かな宿泊施設として整備。崖下の海側に、自然と身体を結ぶウェルネス体験の場の整備、ならびに地域住民が日常的に交流や癒しを得られるオープンな空間づくりを進める。
・プライベートビーチを備えた宿泊施設として利用する。建設は困難のため、コンテナハウス等を活用する。

②ツアー・自然体験

・安全上の観点から一般開放はせず、ガイドツアーによる案内を事業化する。
・地形、海辺、岩屋、仏像等の場所性を活かした散策・体験の場とする。

【複合】

①ジオ

・お林展望公園及び内袋海岸一帯はジオの基本的理念を基に管理し、魅力をアピールする。

②アートを活かした整備

・お林展望公園・内袋はアートを活かした公園、レストラン、グランピング施設として活用する。

【全体】

①事業方針・手法

・対象施設を個別に考えるのではなく、真鶴半島先端部の自然、文化、景観、歴史を一体的に体験できるエリアとして検討する。いずれも大規模な集客施設を新設することを前提とせず、回遊や滞在の質を高めることを基本とする。小規模な実証を行い、利用状況、地域への影響、事業性を確認しながら段階的に検討することが現実的である。
・土地利用の在り方の基本として、自然環境を活かして、雇用を増やし、町の歳入拡大につながる土地利用が求められる。広域集客の体験型、参加型の施設とすることが望ましい。便利で手軽な交通手段も取り入れ、各観光ポイントの回遊性を向上させる。
・経済的に余裕があり、都内近郊のアクティブな大人が楽しめる施設への改修を検討する。町

のキャパシティを考慮し、1 日 100～300 人程の人数に高単価のサービスを提供する。

②自然・文化体験

・町全体でトレイルランニング・フィッシング・潮干狩り・シュノーケリングなど、敷地および周辺海岸・自然を活かした体験プログラムを提供し、自然環境と経済が共生する持続可能なエコシステムをつくる努力をしていく。

・単独の施設としてではなく、真鶴半島の自然・芸術・景観・漁村の暮らしをつなぐ「回遊型の文化観光エリア」として利活用する。少人数で深く味わう体験に向いている地域として各施設をつなぐ少人数制ガイドツアー、写真、映像、スケッチ、ZINE 制作などを組み合わせた体験プログラム、美術館鑑賞と町歩き、自然観察を組み合わせた文化観光プログラム、企業研修、地域学習、関係人口づくりを目的としたフィールドワーク、真鶴の自然、漁業、暮らしを伝える映像・写真コンテンツ、町内飲食店、宿泊施設、漁業関係者等と連携した滞在型プログラムを制作し、短期的なイベント集客ではなく、町民、来訪者、事業者が無理なく関われる「小さく持続可能な文化観光」の仕組みづくりを目指す。

③アドベンチャートラベル

・真鶴半島を、一次産業を体験学習として学べる集積地の半島としてブランディングする。アドベンチャートラベルの文脈に位置づけ、お林展望公園周辺を持続可能な自然教育・観光モデルの拠点として利活用する。

④美の基準

・真鶴半島の魅力としてある自然、眺望、芸術、信仰、景観をばらばらに扱うのではなく、「美の基準」を起点に、半島全体の体験・滞在・学び・事業づくりへ広げていくことが重要だと考える。ビジョンや方針に沿った社会実験や段階的なプレマーケティングを行い、各場所にふさわしい利活用事業を組み立てていくことが有効だと考える。

⑤ロケ誘致

・ロケ地としての認知度を上げることで観光客の来訪の動機を生み出し、観光消費へつなげる。

（2）施設の整備・改修内容

【お林展望公園】

①芝生エリア

・先端に眺望良好の安全なデッキを設置する。写真スポットになるようなイメージで集客に繋げていく。

・芝生が張った地形を生かして、有料キャンプ場、オートキャンピング場、ドッグラン公園、レストラン、浴場、キャンプ用品の店舗へ転用する。

・犬種や体格に応じて安心して遊べるドックランを整備する。ドッグラン内にフードコートを新設し、町内の既存飲食店と連携したデリバリーの仕組みを構築する。
・遊具の設置、キャンプエリアの整備等。

②管理棟

・管理棟を用途に応じて改修・整備してゾーニングする。基本的に大掛かりな改修はせず、現状に付け足して使用する。
・食に関するイベントに対応するため、管理棟1階部分にパントリー機能の追加等を行う。

③全体

・日常時は公園の管理棟、イベントサポートに利用できる施設に、災害時は防災備蓄倉庫として兼務できるよう整備・改修する。再生可能エネルギーや、衛星通信の導入で防災拠点としての機能を維持できるようにする。
・管理／飲食棟は内装、空調設備は更新。その他設備については、調査後に検討。芝生エリアを再整備し、ハーブ・薬草を中心としたオーガニックファームを設置。蒸留室・製造キッチン・ワークショップスペースを新設。またフェス・キャンプ用途に適した野外ステージ・焚き火エリア・キャンプサイトを整備。旧消防車車庫は受付・ショップ・ラボ・一部倉庫として活用し、真鶴のローカルプロダクトとして、ハーブ製品の展示販売・情報発信拠点とする。

④整備方針

・今後の活用を見すえて修繕・改修計画を作成し、町と事業者の負担を明確にし、優先順位をつけて補修を行う。保安林を念頭に大きな整備をせずに現状維持と建物の長寿命化を図る。
・整備・改修が必要。

【中川一政美術館】

①改修・リニューアル

・可能であれば部分的に改装を行い、地域住民とアーティストが対話・共創できるオープンな環境を創出する。
・親子絵画教室などを開催して参加型・体験型の美術館へ変身させる。30%位のスペースを特別展示場に改装し、中川氏以外の人気作家の作品を入れ替えて、入館者数を増やす。
・ラグジュアリーな空間に一新し、中川一政氏だけでなく現代作家の作品も展示する。1日の来館者数に上限を設け、特別感を打ち出す。

②新設

・カフェ厨房設備・給排水設備・多目的スペース音響設備の追加や内装更新・什器新設等。

③現状維持

・整備・改修は不要と考えている。

・現状のままで可能。

④整備方針

・本来の美術館機能を無視した計画は町の資産の破壊につながるので避けるべき。建物本体の修繕と美術館としての補修計画が必要。その上で、将来的な使い方を想定した改修計画の必要性も含めての検討となる。改修計画を作成する際に、専門分野の人材の選出、選定にあたっての各専門領域の質の担保が必要。

・中川一政美術館とお林、海辺の体験をつなぐための展示・案内・導線の工夫をする。

【高浦駐車場】

①サイン整備

・半島散策の入口としてわかりやすくする案内サイン、マップ、集合場所機能の整備をする。

②施設整備

・大型倉庫の建設。

【内袋】

①宿泊施設

・森の中や自然地形に沿った、環境負荷を最小限に抑えた設計の小規模ヴィラを 5～6 棟を新設。崖下にはサウナ・バスタブ・オーシャンデッキ・ボルダリング設備の新設及びアクセス路の整備を行い、真鶴の豊かな自然環境を保護・共生しながら、地域の雇用や観光価値の向上へ還元する。

・宿泊施設の建設、海辺のコンクリートの撤去。

②釣り堀

・既存の水槽を活用し、有料の釣り堀公園にする。トレーラーハウスを設置し、チケット販売などの管理棟、釣具・餌販売・喫茶室などに利用する。相模湾の豊富な魚種を活かして、研究発表や講演会・合宿などを定期的に開催する。内袋観音は整備を行い良好な観光ポイントとする。

③整備方針

・整備・改修が必要。

【複合】

①アート・カフェ

・お林展望公園、高浦駐車場、内袋は、美術館のサテライト会場にし、小松石を使ったアート作品の展示、現代美術作家のインスタレーションの場、カフェの開設などを検討する。

【全体】

①アート施設

・中川一政美術館、お林展望公園、高浦駐車場、内袋が連動するアート施設へと整備する。

②整備方針

・大規模な投資や全面改修を前提にするのではなく、既存施設を活かしつつ、半島全体のビジョンに基づく利活用のために必要な整備・改修を行っていく。整備内容は、社会実験で確認された需要、運営体制、必要経費、資金調達スキームの見通しを踏まえ、段階的に判断することが望ましい。

・各関係法令や、既存施設、土地境界等を確認したうえで検討する必要がある。既存施設・屋外空間の価値を高めるための整備を検討する。誘導表示、案内機能、安全面の改善、滞在環境、休憩機能、デジタル情報発信機能、展示機能、基盤機能等の整備を検討する。具体的な改修案を検討するためには、既存施設改修の可否、用途変更の可否、運営方針の変更の可否、関連法令の確認、町と民間の負担割合の確認等が必要。

・自然環境、景観、文化的価値を損なわない範囲で、来訪者が安全に歩き、学び、滞在できるための最小限の整備を想定する。お林や美術館、海辺、町内への回遊を促すサイン計画、ＱＲコード等による情報提供をする。既存施設の老朽化状況の確認と、必要最小限の安全対策、修繕をする。雨天時や高齢者、親子連れにも配慮した休憩場所、日よけ、ベンチ等の設置を検討。景観を阻害しない小規模な情報発信設備、音声ガイド、映像コンテンツ等の導入をする。

（３）施設の運用・管理について

【お林展望公園】

①地域密着型体制

・地域密着型の体制として、地元の企業や個人が参画する事業会社や組合組織を新たに設立し運営を行う。地域密着型の体制をとることで、地元の雇用創出や経済循環を生み出し、町民自らが管理・運営に関わることでコミュニティの結束を強化する。管理期間は、初期投資の改修や中長期的な地域貢献を見据えて、安定的な事業継続が可能な期間を希望する。

②複数の出店者との随意契約

・管理については出店者等の費用負担とし、複数出店者が互恵の念を持って管理運営を協力し、担う。期間は随意契約を更新していく形を希望する。

③３段階での段階的事業推進

・運用は 3 段階のステップで段階的に進める。Stepl（集客・イベント期）では、愛犬イベント

を定期開催し、初期の認知拡大とコミュニティ形成を図る。Step2（ブランド確立期）では、SNS を中心とした広報戦略により「愛犬と過ごす町」としてのブランドを確立する。Step3（平日システム構築期）では、平日限定の宿泊プランやワーケーションプラン、ドッグラン会員制度を導入し、平日の安定集客につなげる。ドッグラン内フードコートを飲食注文の集約点とし、地域連携店舗が調理・配達を担う仕組みを構築する。

・管理期間は中長期での安定運用を前提とし、詳細な契約形態・期間は町側との協議を行う。

④民間への長期委託

・5 年間以上の長期での民間企業への委託

【中川一政美術館】

①運用方法・検討方針

・指定管理等で一括運営するのか、分割して一部を外部委託等で運営するのかによっても方法が異なるので当面は再開しながら、将来的な運用方法等を集中して検討することが望まれる。企画等運営に関しては、学芸員を筆頭に、外部人材も交えた独創的な企画運営が望まれる。新たな検討協議会等の組織刷新は必要と考える。財団を立ち上げ、美術館運営を担うことも想定される。

・施設運用の柔軟性および効率的利用（施設の対外的プロモーションの強化および中川作品の積極的な他館への貸出や他の作家の作品の美術館内での展示の促進など）の観点から町直営から民間運営もしくは指定管理者制度への移行。学芸部分の確保のため、運営部分と施設管理部分を切り離す可能性も検討する。

②現状維持または民間への長期委託

・現行のままで運営する。あるいは 5 年間以上の長期民間企業への委託

【高浦駐車場】

①民間への長期委託

・5 年間以上の長期での民間企業への委託

【内袋】

①民間への長期委託

・5 年間以上の長期での民間企業への委託

【全体】

①官・民・学・地による推進体制

・官・民・学・地が一体となる推進体制を構築する。行政からの財政支援に依存しない持続可能な商業運用を行うとともに、教育の拠点としても活用することで教育的価値をアカデミックな信頼性を担保する。アドベンチャートラベルの担い手づくりとして、ガイドや地域講師

など人材育成も行う。

②段階的・実証実験的検討

・町直営から一気に全面的な民間運営へ移るのではなく、

1. 多主体共創により、真鶴半島のエリアビジョン検討

2. 真鶴半島のエリアビジョンに基づく都市計画の検討と法令等の条件整理

3. 多主体協働チームづくりとプレマーケティング（試行的な利用を通じた需要確認）

4. 最適な事業手法、資金調達方法を検討し、事業者育成型公募等を進める

といった段階的に検証する進め方がよい。

・1.法令、権利関係、用途制限、費用負担等の前提条件の整理

2.町として残す価値・機能と、民間に委ねる範囲の整理

3.半年から 1 年程度を一つの目安とした期間限定の企画や回遊・案内機能等による実証

4.利用実績、収支、地域への影響、管理負担等の検証

5.検証結果を踏まえた中長期的な事業方式の決定

といった段階的な進め方が適切である。運用体制については、必ずしも一事業者が４つの対象地をすべて担う必要はなく、町、地域、文化関係者、民間事業者、専門的な運営事業者等が役割分担する方法も想定される。

・長期的な包括運営や大規模な民間委託を行うのではなく、実証実験として小規模なプログラムを実施し、参加者の反応、町民の受け止め、収益性、運営負担を確認する方法を検討する。初期段階では、町、地域団体、町内事業者、文化・観光関係者、民間事業者が連携する形で、期間を区切った試行運用を行い、その結果を踏まえて段階的に運用方法を検討する。管理期間については、1 年程度の実証期間を設け、季節ごとの利用状況や課題を確認したうえで、3 年程度の中期的な運用へ移行する方法を検討する。真鶴半島全体の価値を高めるための企画、情報発信、体験設計、町内事業者との連携を含めた運用を重視する。収益化については、各種コンテンツ参加費、町内飲食店や宿泊施設との連携、物販、協賛など、小さな収益を複数組み合わせる。

③複数事業者での共同運営

・施設に係る企画分野と施設管理分野で区別し、複数の事業者での共同運営を行う。管理期間は 10 年以上を希望する。

・期間は最低でも 10 年間を希望する。一社のみでの一括管理も可能であるが、複数の事業者での共同も想定される。

・複数社の共同運営やサブリースも検討する。

④一体的運用

・各エリアを一体的に運用することを基本とし、カルチャーや体験価値をプロデュースする専門スタッフをエリアごとに配置する体制を整備。管理期間は投資回収期間および中長期的な地域貢献・ブランド育成を考慮し、できる限り長期契約を希望。積極的に地域事業者と協働体制を構築、地域住民への雇用創出。

・町は土地や既存建物を賃貸に回し、運営は意欲ある民間企業が行なう。交通の便の改善し、回遊性を向上させる。バスを小型化し、増便する。電光掲示板を設置する。レンタル電動自転車基地を設置し、各施設の回遊性をあげる。

（4）事業化にあたっての課題

【お林展望公園】

①地域住民との共存

・パークゴルフ場利用者など地域住民の日常的利用との共存。

・町民の民意を尊重し、景観に配慮をする必要がある。

【中川一政美術館】

①運営の専門性

・キュレーション、展示企画、物販、運営改善の専門性が必要であること。

②運営方針との整合性

・中川一政美術館の用途・名称・作品の保管、展示義務の確認。他作家の展示、飲食、イベント運営の可否。

・他作家の作品展示へ向けた調整。

・運営方針との整合性。

【内袋】

①安全面

・落石、倒木撤去の解決策と費用に関する検討。

【全体】

①条件、周辺情報の整理・地域連携

・保安林、自然公園、条例、覚書等が重なり、整備可能範囲や用途転用の可否が見えにくいこと。既存建物についての設備状態、維持管理費、修繕可能範囲の確認が必要であること。関係団体や町民との合意形成や連動が必要であること。

・法令・土地・建築条件、土地境界の確認。実施可能な行為の整理。

・事業方式と期間、各種費用の負担区分、収益の帰属、ネーミングライツの可否、町からの委

託料、指定管理料等の有無の整理。交通・回遊手段の整備。地域との合意形成と意見の反映。

・法令、条例等による活用制限の確認。各施設、土地において可能な活用範囲の整理。既存施設の老朽化、修繕、維持管理費の把握。町民や既存団体との合意形成。自然環境や景観を損なわない事業設計。収益性と公共性のバランス。町内事業者との連携方法。

・ロケ地として利用する際の住民への理解と協力体制。

②初期体制づくり

・ガイドや地域講師となる人材の確保。

・初期の設備投資、イベント誘致、観光客集客のノウハウ構築。新たに設立する組織づくりにおける初期の調整に係るコスト。

③専門人材

・今後の事業者公募に向けた募集要項や仕様書作成へ検討の際に各分野の専門家に入ってもらうことが有効である。専門家等にはその後の選定委員会または選定審議会に入ることを想定する。

④回遊性

・各エリアの魅力や真鶴の自然・カルチャーを体感しながら各エリアの回遊できる動線・景観設計の検討。

・町全体で「おもてなしの心」を育む必要がある。

・既存の観光地は「遊ぶ」「泊まる」「食べる」の機能が分散しており、地域全体で一貫した対応ができる観光地がまだ少ない。また、犬同伴で利用できる宿・飲食店の数が限られている。

・観光客を引き込む目的性の創出。宿泊施設が少ない。指定管理者制度の際の維持管理費の負担割合の整理。

・交通の便の改善。

（５）町に期待すること

【中川一政美術館】

①情報提供

・美術館の作品・覚書・著作権者との協議状況に係る情報提供。

【内袋】

①安全面

・内袋エリアへの安全管理面での町の協力および、町民・利用者の安心安全を守るための合同防災・安全対策の実施。

【全体】

①情報提供・手続き等への支援・体制づくり

・町に対しては、改修や設備導入に係る費用に関する国などの交付金・補助金に関する情報提供や申請支援などの連携を求める。新たに設立する組織づくりにおける認定手続きなどでの窓口やサポートを期待する。

・法令や施設に関する情報共有。庁内横断で検討できる体制づくり。多主体共創の検討体制・機会の設置。既存利用者、地域住民、関係者との対話機会の設定。社会実験を行うための暫定利用条件の整理。旧土屋邸を含む町内公的不動産再生との連動整理。

・整備にあたっての許認可・法的手続きに係る町の支援。施設や土地に係る町からの情報提供。

・町として必ず守りたい価値、機能、用途、変更できない条件と、協議・変更の余地がある条件、各対象地に期待する役割、４つの対象地を一体で提案する必要性の有無、一部対象地のみへの提案可否、用途変更、名称変更、増改築、減築等の可否、・既存建物の適法性、安全性、継続利用の可否、保安林・自然公園法等の許認可条件、 図面、設備、修繕履歴、維持管理費、光熱費等の基礎情報、貸付、指定管理、運営権当等、想定する事業方針、改修費、修繕費、維持管理費等の負担区分、収益事業、飲食、酒類、宿泊、夜間利用等の可否、事業期間、使用料、委託料等の基本条件、サウンディング後の検討、協議、意思決定の進め方、民間提案に対する町としての検討・回答方法等に係る情報提供。

・活用可能な範囲、法的・制度的な制限、施設ごとの維持管理状況、町として民間事業者に期待する役割の共有。町民や関係団体との対話の場を設けながら、官民が同じ方向を向いて進められる体制づくり。

②地域・関係団体との連携

・行政による積極的なＰＲや教育機関、地域関係団体などとの連携にあたっての橋渡し役を期待する。

・町からの町民への協力、理解へ向けた働きかけ。

・犬同伴で利用できる宿・飲食店の受け入れ拡大に向けた協力、および平日の観光客誘致に向けた町全体での連携体制の構築。

・漁協等関係団体との協力体制構築。

・民間企業と連携して、バス・タクシーだけではない交通インフラの整備。遊休資産を活用して宿泊施設を拡充。

③迅速さ

・公募は早急に進めてほしい。

（6）その他（自由意見）

・アドベンチャートラベルは施設の利活用にとどまらず、ガイドや地域講師といった人を育てることで地域に雇用と誇りを生む取組みといえる。
・単なる一過性の公園整備や外部事業者への丸投げに留まらず、官民一体となった真鶴町の未来のモデルケースとなる協働事業を構築したい。
・特設サイトなどを立ち上げて、町内外へ発信していくことも必要。
・自然・食・アート・音楽・ウェルネスが交差する複合的な体験の場を構築したい。真鶴の風土や営みを更に理解していき、町民の皆様や個の可能性を持つ方の情熱と共に、温かいコミュニティとカルチャーを育くむ。「人と感性が交差するハブ」として、真鶴の魅力を世界へ発信する取り組みを邁進する。
・今回の対象地については、現段階で特定の用途や事業方式を決めるのではなく、まず町として守りたい価値と、民間の工夫が可能な範囲を確認するべき。
・参加型・体験型観光施設として釣りを活用する。
・多くの人が訪れるのではなく、限られた人数で最大限の経済効果を発揮することをめざす。
・首都圏から近い自然環境を活かした「愛犬と過ごす町」としてのブランド確立をめざす。
・美術館単独での運営が収益面から困難。共同ができる事業者がいれば紹介がほしい。
・真鶴を深く理解し、何度も訪れたくなる人を増やすことが、結果的に地域経済や関係人口の創出につながると考える。町民にとっても誇りを持てる形で、真鶴半島の価値を次世代につなげる活用を検討したい。
・立地や静かな環境と自然があるので観光ポテンシャルを上げることが十分に可能。ロケ地として価値の高い自然や物件があるので活用することで収入源を増やし、観光客を引き込む。

8．サウンディングの結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングにより、お林展望公園周辺の利活用のためのアイデア、施設の整備・改修、施設の運用・管理や事業化にあたっての課題についてご意見、ご提案をいただきました。

今後、サウンディングの結果を踏まえて、お林展望公園周辺の利活用に係る事業方式や内容の検討を進めていく予定です。

また、提案の中には当該エリアを含めた真鶴半島全般の活用に関するご意見、ご提案や、町だけではなく、住民や地域団体、地域事業者や専門的な知見者などとの連携についても言及いただいております。真鶴町では、「お林」や海をはじめとする貴重な自然環境を守り、次世代へ継承しながらその価値を高めていくため、真鶴半島に関する「構想」を発表する予定です。本構想の発表後は、町民の皆様との丁寧な対話やご意見を重ね、サウンディングでのご意見も含め皆様の思いを反映し

ながら、事業者公募に向けた具体の公募要件やルールを検討していきます。真鶴の歴史やお林保全、そして自然や海の適切な利用に対する深い理解と共感を持つ事業者様とともに、町民の皆様と一緒に 30 年先を見据えた真鶴半島の未来づくりを進めていきます。